

釈迦御所領御書

文永期

王これをもちゐず。仏、地神天神^{ちじんてんじん}を証人として論じかたらせ給ひたりき。さればこの世界は我等が本師釈迦如来の御所領^{ごしよりょう}なり。されば四衆ともに仏弟子なれども、憂婆塞^{うばそく}・憂婆夷^{うばい}は仏弟子なれども外道にもにたり。比丘^{びく}・比丘尼^{びくに}は仏の真子なり。されば大悲経には大梵天^{ぼんてん}・第六天^{たいしやく}・帝釈^{たいしやく}・四大天王^{たいしやく}・人王等を一々にめして、三千大千世界を次第にゆづり給ひて云はく、この世界を領^{りょうち}知して我が真子比丘比丘尼^{びくびくに}を供養すべき由をとき給ひき。爾の時、梵天^{ぼんてん}・帝釈^{たいしやく}等仰いで仰せに随ひにき。又、正直捨方便^{しょうじきしゃほうべん}の法華経の譬喩品^{ひゆほん}に云はく「今此の三界は皆是我が有なり其の中の衆生は悉^{ことごと}く是吾が子なり」等云云。この文のごとくなれば、この三界は皆釈迦如来の御所領なり。寿量品に云はく「我常に此の娑婆世界^{しゃば}に在り」等云云。この文のごとくなれば、乃往過去五百塵点劫^{むかし じんでんごう}よりこのかた、此の娑婆世界は釈迦如来の御進退の国土なり。其の上仏の滅後一百年に阿育大王と申す王をはしき。此の南閻浮提^{なんえんぶだい}を三度まで僧に付嘱^{ぶぞく}し給ひき。又此の南閻浮提の内の大日本国をば、尸那国^{しな}の南岳大師^{なんがくだいし}此の国の上宮太子^{じょうぐうたいし}と生まれて、この国の主となり給ひき。しかれば聖徳太子已後の諸王は皆南岳大師の末葉^{まつよう}なり。桓武天王已下の諸王は又山王